

一次性頭痛におけるネガティブな解釈

Negative Interpretation of Primary Headache

三輪 珠美 (Tamami Miwa)

指導：野村 忍

問題と目的 一次性頭痛は心身に様々な影響を与える。痛みの維持・増悪に関わる心理的要因として痛みへのネガティブな解釈が指摘され、この解釈を明らかにすることによって頭痛による心理的負担や日常生活の支障の軽減につながると考える。そこで、本研究では、頭痛に特異的な場面の解釈を測定する尺度を作成し、解釈が頭痛による心理社会的機能へどのように影響しているかを明らかにする(研究1)。さらに、ネガティブな解釈へ介入し、その効果を検討する(研究2)。

研究1 頭痛に関する解釈が頭痛による心理社会的機能へ及ぼす影響

[研究1-1]頭痛に関する解釈尺度の作成

対象 大学生・大学院生 330 名(平均年齢 20.22±2.59 歳)

調査材料 1)痛みの強さ、2)日本語版 Headache Impact Test(坂井他, 2004), 3)Pain Catastrophizing Scale 日本語版(松岡・坂野, 2005), 4)Pain Anxiety Symptoms Scale-20 日本語版(松岡・坂野, 2006)、5)自己評価式抑うつ性尺度(福田・小林, 1973)

結果と考察 予備調査により、頭痛に関する解釈尺度を作成した。最尤法プロマックス回転による因子分析の結果、「頭痛誘発状況」と「身体症状」について Probability bias、ネガティブな解釈、ポジティブ/ニュートラルな解釈の因子が確認された。また、各因子は高い内的整合性が示された。ネガティブな解釈は、破局的思考、痛みの強さや支障との間に中程度の相関がみられ、併存的妥当性が示された。

[研究1-2]解釈の反応パターンと心理社会的機能との関連

対象 研究1-1の対象者のうち、頭痛保有者 229 名

結果と考察 クラスター分析の結果、(1)ポジティブ/ニュートラルな解釈を採用、(2)ネガティブ、ポジティブ/ニュートラルな解釈双方とも採用しない、(3)ネガティブな解釈を採用、という3つの反応パターンが示された。(3)では、痛みの知覚や支障が高く、痛みの認知の歪みが大きかった。

[研究1-3]解釈が頭痛による心理社会的機能へ及ぼす影響

対象 研究1-2の対象者のうち、頭痛保有者 222 名

結果と考察 ネガティブな解釈モデルを構成し、パス解析によって分析した(Fig.1)。第1に、痛みを知覚した際、Probability bias とネガティブな解釈が痛みの知覚を高めた結果、支障や抑うつに影響するプロセスが示された。第

2に、頭痛がおりそうだと過度に予測し、ネガティブな解釈が高まることで、頭痛が起きていない場合にも支障や抑うつが悪化するプロセスが示された。よって、頭痛特有の解釈が関与するプロセスが示された(GFI=.971, AGFI=.908, RMSEA=.084)。

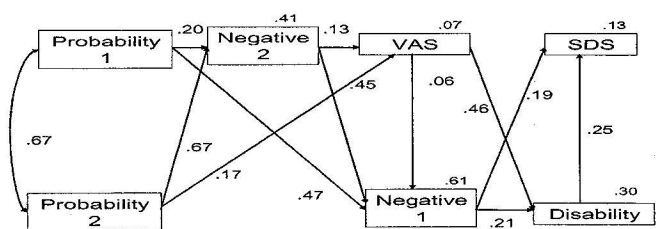


Fig.1 頭痛保有者におけるネガティブな解釈モデル

研究2 ネガティブな解釈への介入の効果検討

対象 一次性頭痛を持つ女子大学生 8 名

実験手続き ①pre 期(1week)、②介入(認知的再体制化)、③post 期(1week); pre, post 期に頭痛時の考え・症状を記録。

調査材料 研究1で測定した尺度、および頭痛日記

結果と考察 介入後、ネガティブな解釈の低減、ポジティブ/ニュートラルな解釈の増加がみられ(Po/Neu1: $F[2,14]=3.22, p<.10$; Neg2: $F[2,14]=4.31, p<.05$)、解釈の変容が確認された。また、支障の低減がみられたが($F[2,14]=2.68, p<.10$)、介入後に痛みの程度が強くなっており($F[2,14]=10.33, p<.01$)、実験による客観的な頭痛症状の知覚の促進が考えられた。しかし、モニタリングの効果か介入の効果か特定できなかった。

総合考察 頭痛に関するネガティブ・ポジティブな解釈の存在が明らかにされた。また、ネガティブな解釈と心理社会的機能との関連が示され、この解釈への介入により、頭痛に関する認知や支障を低減する効果が確認された。つまり、頭痛に関する解釈が頭痛症状を維持・増悪する可能性が示唆された。一方、今後の課題として①頭痛患者を対象とする、②介入での統制群の設定、③長期的フォローアップ、が指摘できる。